

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和2年9月4日

施設名	高知県立牧野植物園	所管課室	林業振興・環境部 環境共生課
-----	-----------	------	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県牧野記念財団	指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日
施設所在地	高知市五台山4200番地6		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・植物園の設置の目的※を達成するための事業の企画及び運営に関する業務 ・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務 ・植物園の利用料金の收受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務 ・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務 <p>※『牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供する』 (高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条)</p>		
施設内容	<p>○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p><植物園面積> 約20.5ha(うち7.8haを利用)、駐車場(普通車など195台、バスなど8台) <主要施設> 牧野富太郎記念館(本館、展示館)、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど <開園時間> 午前9時～午後5時 <休園日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 入園料/一般730円(高校生以下無料)、団体630円(20名以上)、年間入園券2,930円、高知県長寿手帳保持者等は無料 施設利用料(1時間当たり)/映像ホール1,470～1,890円、アトリエ実習室520～630円など 撮影料/業として行う写真の撮影:撮影者1人当たり日額1,880円、業として行う映画の撮影:撮影機1台当たり1時間3,780円</p>		
職員体制	常勤職員: 24人 契約職員: 27人 合計: 51人		

「職員数は令和2年4月1日現在」

2 収支の状況

単位:千円

		平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(予算)
収入	県支出金	394,591	409,202	403,659
	使用料・手数料	56,530	61,102	69,648
	その他	12,465	13,041	5,447
	収入計 (a)	463,586	483,345	478,754
支出	事業費	53,756	65,232	55,075
	管理運営費	194,216	192,260	207,264
	人件費	209,539	214,141	216,415
	その他	6,075	11,712	0
	支出計 (b)	463,586	483,345	478,754

3 利用状況

	30年度(実績)	令和元年度(実績)	令和2年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	155,535	174,074	180,000
②利用者意見等の反映	<p>○利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントや教室開催時にはアンケートを実施のうえ、要望を把握し、次回以降の企画に活かしている。 ・苦情については、適宜迅速かつ丁寧に対応し、経緯を含め職員間で対応に関する共通認識を持つようにしている。 		
③その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年8月3日に常設展示室をリニューアルオープンし、4KVR映像を大型スクリーンで視聴できる展示館シアターを新設した。また、展示館シアターと連携した企画展「植物は、うごく。-4K映像でみる・しる成長のひみつ」を実施し、見たことのない植物の動きを映像をとおして見ていただくことで、植物の新たな魅力を来園者の方々に伝えるようにした。 ・令和31年4月27日にオープンした新園地「ふむふむ広場」を活用した学習プログラムを新たに開発し、県内の学校を中心に28回1,575人に実施することができた。 		

4 令和元年度業務評価

項目	状況説明
①適正な管理運営の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・法令順守、利用料金の徴収に関する業務、施設の利用及び撮影の許可に関する業務、施設管理、情報管理などについて、公の施設として適正な管理運営が行われている。
②利用者サービスの維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーカー、車イスに加えてシルバーカーの貸出等、来園者にとって利用しやすい管理運営に努めている。 ・外部で行われる接遇セミナー等に参加するほか、財団内部でも情報共有や勉強会を実施している。 ・園内のショップやレストランと定期的に意見、情報交換を実施しており、グッズやメニューの開発において連携し、来園者へのサービス向上に努めている。
③事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・園地、植物管理においては、牧野博士ゆかりの植物や高知県の野生植物など30種約150株を新たに植栽し、展示植物の充実を図るとともに、植物ラベルや解説カラーパネルを積極的に新規設置あるいは更新し、来園者へのサービス向上に努めた。 ・基礎研究分野では、研究活動の成果を8本の原著論文として公表するとともに、学会やシンポジウム、講演で22題の研究成果を発表した。標本数は1年間で7,248点増加し、総数310,018点と充実を図った。 ・薬用植物研究では、引き続きシヤクヤク等の栽培試験を行うなど、中山間地域における産業振興に向けた研究調査を実施した。また、民間企業や大学等と、薬用植物の栽培や牧野博士ゆかりの植物からの機能性商品の開発を目指す共同研究を実施した。
④収支の状況	<p>年間入園者数は前年度から18,539人増加し、利用料金収入も前年度から約4,572千円増の61,102千円となった。</p>
総合評価	A
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各部門が連携して植物情報の発信、来園者誘致に努めることができた。 2. 研究型植物園として、専門知識を生かした植物調査やセミナーの開催など、園内外で新しい分野に取り組む姿勢を評価する。 3. 児童が参加し、植物に触れる機会が得られる植物図コンクールや、学校の樹木の診断などは学校と植物園が近くなった成果だと言える。 4. 学習プログラムの取組をさらに発展させ、県内のみならず、県外の学校からも来ていただく取組を進めてほしい。 5. さらなる研究助成金や受託事業等、外部資金の獲得を期待する。

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの